

『病院の言葉』を分かりやすくする提案」をご存じですか？

近年、病院などで診療をする際には、患者に対してその病状や治療法などについて、医療者から十分な説明をし、患者がそれを理解し納得した上で自らにふさわしい医療を選択するのを支えることが求められるようになりました。

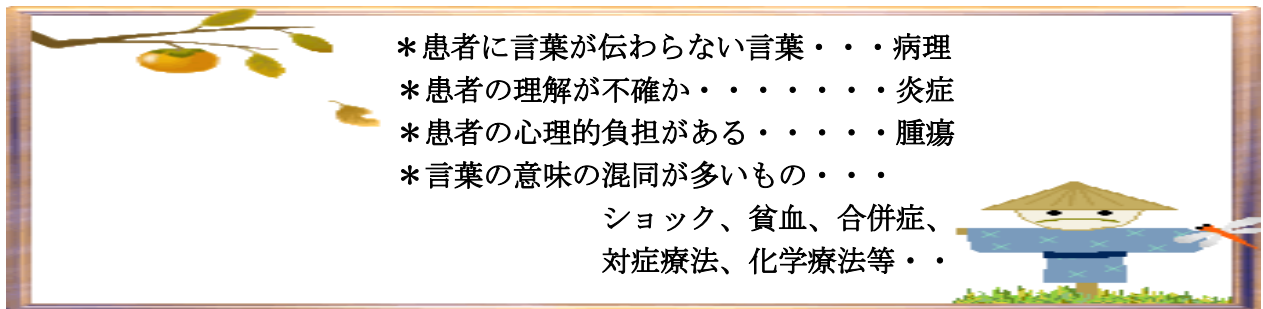
しかし、高度に専門化の進んだ医療の現場では、専門家でない一般の人々が、そこで使われる言葉を正しく理解して的確な判断を下すことは容易ではありません。

国立国語研究所が実施した調査では、8割を超える国民が、医師の説明の中に、分かりやすく言い換えたり、説明を加えたりしてほしい言葉があると回答しています。

患者が自らの責任で医療を選択するには、言葉が表わす内容を理解することが重要と言えます。

10月に、国立国語研究所「病院の言葉」委員会から、『病院の言葉』を分かりやすくする提案（中間報告）が出されました。

これは、医療者による分かりやすい説明の指針として、患者・家族の的確な理解を助ける手引となる事を期待して作成されました。皆さんの施設でも、患者・家族への説明時に活用されたいかがでしょうか。



- * 患者に言葉が伝わらない言葉・・・病理
- * 患者の理解が不確か・・・・・・・・・・炎症
- * 患者の心理的負担がある・・・・・・・・腫瘍
- * 言葉の意味の混同が多いもの・・・
ショック、貧血、合併症、
対症療法、化学療法等・・・